

海でのカヤック体験が児童の不安と楽しさに与える影響

村岡冬輝 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 中野友博

キーワード：カヤック体験，児童，不安，楽しさ

1. 序論

海でのスポーツは湖などで行うスポーツより波が高く、リスクが高まると考えられる。マリンスポーツとしてのカヤックは、近年レクリエーションカヤックの領域までその視野を大きく広げ、家族で楽しめるカヤック、生涯楽しめるカヤック、自然と調和したクリーンなスポーツとして、ますます普及・発展することが期待されている。筆者がインターンシップ実習で訪れた海洋キャンプ施設で、カヤックを行い、泣いている児童やその場から進みだせない児童を目の当たりにした。カヤック、カヌーは近年レクリエーションで行われるようになり今後の発展、普及が期待されている。

そこで、本研究では海でのカヤック体験が児童の不安と楽しさに与える影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

平成28年度8月16日～27日にA海洋センター海洋キャンプのカヤック体験に参加する小学校4年生～6年生47名を対象とした。

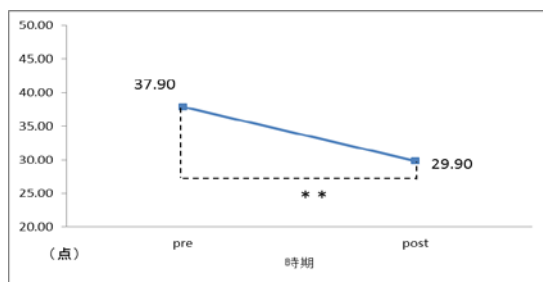
調査時期は、カヤック体験前(pre)、カヤック体験後(post)の計2回である。

調査内容は、荒木ら(1989)が作成した不安検査尺度(4因子18項目)をカヤック体験の不安の内容に修正ものを使用した。また、徳永ら(1997)が作成した小学生を対象とした運動の楽しさに関する尺度(8因子24項目)を海でのカヤック体験の楽しさに修正したものを使用した。

3. 結果と考察

1)不安の変容

カヤック体験に対する不安得点の合計は有意な低下がみられた。男女別で見ると、不安合計得点は男子に有意な低下が見られた。男子は、不安気分・指導不安・内的不安因子において有意な低下が見られた。女子は、どの因子にも有意な低下は見られなかった。男子は女子に比べ目の前のやるべきことなどに順応する能力やカヤックに対する準備などができていた。またカヤック体験をしていく中で不安に感じていた部分を克服できたという実感があったため、得点が女子よりも有意に低下したのではないかと考えられる。

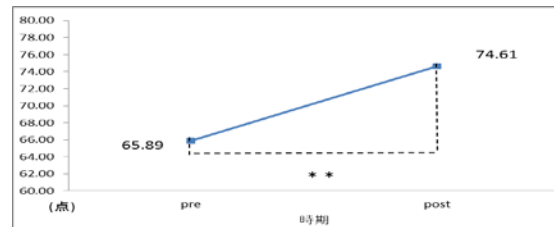


***p.01

図1 カヤック体験に対する不安合計得点の変化

2)楽しさの変容

楽しさ合計得点は、pre-postで有意な変化がみられた。男女別で見ると、楽しさ合計得点は、男子は、有意な変化が見られた。また因子別でみていくと、男子は、挑戦・創造的活動・集団行動・観戦応援・スリル感・自己実現の6因子に、女子においては、楽しさ合計得点・挑戦・健康・集団行動・自己実現の4因子において有意な変化が見られた。女子は全体的にカヤック操作に戸惑っている場面が多く見られた。カヤックを楽しんでいる場面も見られたが男子に比べると余裕がなかったと考えられる。このことから男女において得点傾向に差が出たと考えられる。



***p.01

図2 カヤック体験における楽しさ合計得点の変化

3)楽しさと不安の関連性

楽しさと不安の関連性をみると、楽しさと不安の間に低い負の相関($r=-.441$)がみられた。男女別でみてみると、男子には低い負の相関は見られなかった。女子は、特に楽しさスリル感因子に低い負の相関がみられ、不安の4因子全てに低い負の相関が見られた。女子は不安において、pre-postで有意な低下は見られていなかった。しかし、楽しさ因子得点と不安因子得点の間には低い負の相関がみられた。その要因としては、女子は不安に対しての耐久があり、女子ならではの特徴だと考えられる。

4. 結論

カヤック体験における楽しさは向上した。カヤック体験に対する不安は男子において有意に低下した。楽しさと不安の関連性では、カヤック体験をすることで楽しさが上がると不安も下がりその中でも女子に低い負の相関がみられた。

引用・参考文献

- 1)荒木紀幸・佐藤正二・根井真紀子(1989)児童用テスト不安検査の標準化に関する基礎的研究. 教育科学部紀要人文科学. 45. pp15-28
- 2)飯田稔・井村仁・影山義光(1986)冒険キャンプ参加児童の不安と自己概念の変容. 体育科学系紀要. 11. pp79-86.
- 3)徳永幹雄・橋本公雄(1997)体育授業の「運動の楽しさ」に関する因子分析的研究. 健康科学. 2. 75-90.